

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	3 歴史的環境に触れる場と機会の充実	② 施策番号	7610
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	5 まちの風土や歴史的資産が今に息づくとともに、これらを基盤とした新たな文化が花開くまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 歴史的資産の活用		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	生涯学習課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	文化財、市民
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	施設の利用者に歴史的環境に触れる場と機会を提供するために、歴史的資産の活用をはかる。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態、今後どのように変化していくと考えられるか)	史跡整備や埋蔵文化財センター建設といったハード面への国庫補助は減額傾向にあり、むしろ歴史的資産の活用や保護への補助額が増加している。また歴史文化基本構想の策定が推奨され、基本構想を踏まえた日本遺産制度が始まるなど、歴史的資産の活用を通じた地域づくりを推し進めることに国の考え方がシフトしている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 埋蔵文化財センター開館日に対する行事開催日数の割合 計算式: 行事開催日数/開館日数 × 100	%	埋蔵文化財センター開館日1日あたりの行事開催割合を示す。
② 埋蔵文化財センター1日あたりの入館者数 計算式: 利用者総数/開館日	人	埋蔵文化財センター開館日あたりの入館者数。
③		

指標名	単位		H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
① 埋蔵文化財センター開館日に対する行事開催日数の割合	%	目標値	110	110	110	110	110	
		実績値	110	108	100	—	—	
		達成率	100.0%	98.2%	90.9%			
② 埋蔵文化財センター1日あたりの入館者数	人	目標値	30	30	30	30	30	
		実績値	27	31	29	—	—	
		達成率	90.0%	103.3%	96.7%			
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方向性		
1	史跡海会寺跡広場施設維持管理事業	委託料	千円	1,050	892	892	8,998	7,172	7,644	B	イ	b	
2	埋蔵文化財センター施設運営活用事業	利用者数	人	8,360	7,711	—	7,715	7,912	—	D	イ	e	
3	埋蔵文化財センター施設維持管理事業	委託料	千円	2,287	2,404	2,301	8,214	15,104	7,948	B	イ	b	
4	埋蔵文化財センター施設保全整備事業	修繕料	円	0	1,934	0	0	3,231	0	A	イ	e	
5													
6													
7													
8													
計	4						24,927	33,419	15,592				

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	史跡海会寺跡広場と埋蔵文化財センターを良好な状態で維持管理し、さらにニーズに見合った魅力的な行事を弛まず重ねることで、歴史的環境に触れる場と機会を充実させることができる。行事の開催にあたっては極力住民と行政とがフラットでオープンな場において対話し、参画する場を設けることを意識しており、このような施策を継続することで、市民による歴史的資産の主体的な活用や保護意識の向上が期待できる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	ほぼすべての開館日に何らかの文化財活用行事を開催しており、市民参画による行事の開催などで、一日当たりの来館者数は増加している。しかしながら、現状の職員数では近い将来限界が訪れることが予想され、さらに施設の活用をすすめる、市民に歴史的環境に触れる機会を広く提供するためには増員措置が必要である。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	企画段階よりの住民参画による行事開催は現在も行っている。複数回のワークショップでの対話を踏まえた事業では、それぞれの住民が事業の担い手となってもらうことが可能であり、行政からのアプローチよりも、さらに効果的な普及啓発効果が期待できる。また同様の手法で作成した郷土カルタは学校現場等へ配布し、郷土学習や国語学習への活用をはかっているほか、販売用とした100余部はたちまち売り切れた。いずれの取組みにおいても埋蔵文化財センターがコアなコミュニティベースとして機能しており、そのためにも行政には施設の適切な維持管理が求められる。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	良好な状態で歴史的環境に触れる場を提供するには、適切に維持管理された施設が必要である。また継続的に施設利用を促すためにガイダンスや展示、体験学習などの充実をはかるほか、郷土カルタのような魅力的なツールの開発が有効である。また全国各地の埋蔵文化財センターの実態を知る機会が得られることは、歴史的資産の活用を施策目標とすにあたっては非常に貴重であり、重要である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	施設設備の適切な維持管理がなされている前提で、次に求められるのは施設の内容、魅力的な活動といったソフト面での充実であると考え。埋蔵文化財センターの運営活用事業を充実させることで、密接にリンクする史跡海会寺跡広場の効果的な活用やその他の歴史的資産の活用にも効果的な影響が及ぶようにしたい。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	C	歴史的環境に触れる場、機会を充実させるためには既存の資産、施設をさらに有効活用し、また住民参画によるあらたな取り組みを拡充する必要があるものとする。しかしながら現在の職員数では実施できる事業に限界があり、将来的には増員が望まれる。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	日常的な点検を実施し、不具合があれば即時対応することで、施設利用の安全性を確保する。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	市民協働型事業において、子育て世代の自己実現や、観光振興など多様な事業目標を設定し、多様な市民の参画を目指す。また、それに伴う人員の増員が必要となる。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	市主催事業への市民参画を促すだけでなく、事業自体を実施する市民団体を育成・支援することを目的とする。また、団体の育成・支援には長期的な対応が必要であるため、それに伴う継続的な人員の増員が必要となる。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	C	埋蔵文化財センター開館日に何らかの文化財を活用した行事が開催され、施策達成に向けた展開が適切に実施されている。 中長期的な事業展開にあたっては、市民協働や市民団体の育成など様々な取組への検討を進められたい。	